

1 幼・保小中12年間の連携

子どもたちが、高浜市のよさを感じながら、心豊かに成長・発達するために12年間の学びと育ちをつなぐ、「異校種間の連携教育」を推進する。教職員間の情報交換会や異校種参観により、互いの教育観や指導法への理解を深める。共通の目標を掲げ、指導がとぎれないようにつなげる教員の意識をさらに高める。

2 確かな学力の向上

(1) 教師力・授業力の向上

子どもたちに確かな学力を身に付けさせるために、専門的な教育の担い手としての教員の教師力・授業力向上をめざす。

(2) きめ細やかな指導の充実

子どもたち一人ひとりの学力の定着を図るためには、きめ細やかな指導が不可欠であることから、各学校の児童生徒の実態に合わせた少人数指導に取り組む。

3 一人ひとりを大切にす教育

(1) 特別支援教育の充実

園や学校で困り感をもつ子どもに必要な応じた支援をするため、個別の教育支援計画を保護者と教職員が共有して有用な話し合いを進める。学校を中心に医療や福祉などの関係機関と連携して、それぞれの支援がつながるように取り組むとともに、学校規模や必要に応じてスクールアシスタント、通級指導担当者、スクールサポーターなどを配置する。

(2) いきいき広場福祉部との連携

昨年1月に教育委員会がいきいき広場に移り、市福祉部との連携を一層進めている。関係各機関が適切に連携し、多様なニーズに応えることができるように努める。

(3) 相談活動・学習支援の充実

こころの相談員が、適応指導教室「ほっとスペース」のほか、各校を訪問して子どもや保護者、教職員の相談を行う。また、スクールヘルパーを中学校に配置し、学校不適應をおこしている生徒の学習支援や生活支援を行う。このほかにも、学校生活のさまざまな場面を充実させることにより、不登校やいじめ対策につなげる。

(4) 外国人支援教育の充実

外国籍児童生徒が増加し多国籍化が進んでいる。外国籍の児童生徒を対象とした早期適応教室「くすのき学級」での指導が成果を上げており、平成30年度から指導員を1人増やし、高浜小学校にも新たに早期適応教室を開設する。

4 地域と協働する学校

学校を「学びの拠点」とし、地域の活動を行う場、地域住民が授業や学校行事などをとおして、子どもたちと交流する場となるように努める。特に、総合的な学習の時間などの高浜カリキュラムの実践や各種学校行事では、地域の「人・もの・こと」を大切にし、保護者や地域の方と共に活動し、共に学ぶ機会を積極的に取り入れる。子どもたちが地域行事に参加・参画し、地域の方とのふれあいを密にして高浜市の文化を継承、開発、発展させることができるように、「地域とともにある学校」をめざす。

5 安全で快適な教育環境

学校が地域との関わりを大切にした市民の学び舎となる教育環境の整備を計画的に進める。

「高浜小学校等整備事業」では、多様な活用が可能な学校施設をめざし、まちづくりや交流の拠点、避難所機能を担う場となるよう整備計画を進め、平成31年度の開校をめざして昨年末に着工した。また高浜小学校の水泳授業に民間プールの活用を計画し、その運用や指導などについて検討を進める。

さらに、教育のICT化を推進し、タブレット、電子黒板、デジタル教材などの充実を図る。

また、愛知県教育委員会「教員の多忙化解消プラン」に基づき、平成30年度より、中学校の部活動の実施時間など、学校における教育活動全般の見直しを図る。